

Interview with
Hiroshi
Akura

成長を続ける組織が 照らす薬局の未来

〔前編〕

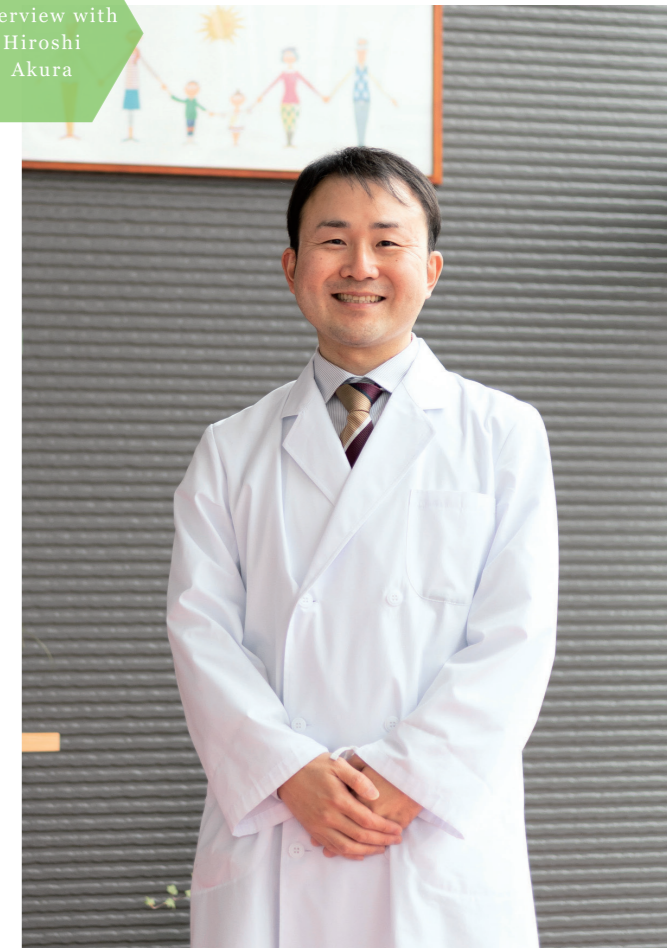
地域包括ケアシステムの構築が進む中で、薬剤師・薬局を取り巻く認定制度の整備が急速に進められている。2022年4月の調剤報酬改定では、厚生労働省が描いてきた「患者のための薬局ビジョン」がさらに具体化し、薬剤師・薬局への変革に大きな期待が寄せられている。

今回訪れたのは、岡山県内で15店舗を展開する『マスカット薬局』だ。1998年の創業以来、「命ある企業」を理念に地域の一人ひとりの健康を守ることを目的とし、企業活動を行なっている。同社がもっとも力を入れているという人材育成のあり方と、地域医療の現場に切り込む多様な取り組みについてお話を伺った。

あくら ひろし
安倉 央氏 マスカット薬局 教育部門長(DI部門長)

PROFILE

2004年京都薬科大学薬学部卒業、2022年福岡大学大学院薬学研究科を卒業し博士(薬学)号を取得。2009年マスカット薬局に入社、2021年より現職。京都薬科大学臨床薬学教育研究センター(特命教授)、岡山県薬剤師会倉敷支部理事、岡山プライマリ・ケア学会理事を兼務。



地域の健康を守るための チームづくり

岡山市中心部から北へ約10km、桃太郎伝説でも知られる笹ヶ瀬川を越えてしばらく進むと、明るいグリーン看板と太陽のマークが目飛び込んできた。創業24年の同薬局は、県内各地に15店舗を展開。2022年4月現在、薬剤師45名を含む93名が所属している。迎えてくれたのはマスカット薬局の医薬品情報管理部門で部門長を務める安倉央氏だ。成長を続ける組織において、「縁の下の力持ち」と称して、チーム医療の連携強化と患者への正しい情報提供、薬物療法を実践するための中核を担うのが、医薬品情報管理(Drug Information、以下DI)部門だ。医薬品情報管理業務、いわゆるDI業務は、医師や他職種との協業の現場において専門性が発揮されるという印象がある。薬局の中でDI専門の部署を設けているケースは稀ではないだろうか。部門を立ち上げた背景には、地域医療の一端を担う薬局としての、未来を見据えた組織改革があった。

「私が入社した2009年当時は現在のようない体制ではありませんでした。ただ、その頃から代表をはじめ、社内全体で地域に向けた取り組みにチャレンジしたいという思いが高まっている時期でもありました」。大学卒業後、在宅医療へ熱心に取り組んで

いた安倉氏は、代表を務める高橋氏の「地域の健康に貢献したい」との思いに共感し、「ここならやりがいのあることに挑戦できる」と転職を志望。倉敷店で管理薬剤師として勤務したのち、DI部門に異動となる。現在は、教育部門も兼務しながら、店舗と本部をつなぐ橋渡し役を担っている。入社以来、挑戦したいことを積極的に社内に向けて発信してきたという安倉氏の話ぶりから、会社全体の風通しの良さが伺える。「代表は、従業員の声を聞き入れて経営に活かしたいという考えを持っていて、私もやりたいと思ったことはどんどん伝えていきます。理念に沿った行動プランであれば間違いはない」ということで、必要と判断すれば「やればええが」と通してもらえます」

2010年に、地域の健康を守る薬局を目指すためには社員一人ひとりの志とチーム力が欠かせないという考えの元で立ち上がった「教育部門」が、地域貢献を強化するチームづくりのきっかけとなる。教育部門では、薬剤師各人が専門分野を持つことができるように、日常業務へのアドバイスだけでなく、個人の興味にあわせて学会所属を提案し、学会発表や論文執筆のサポート、学会認定の専門資格取得に向けたアドバイスを行っている。

質の高いサービスを提供し 信頼関係を築く人材育成

本部のある建物2階に「マスカットホール」という100名は収容できそうな広い空間がある。地域向けのイベントのほか、年間さまざまな研修会や発表会を開く場として10年前に設けられた。マスカット薬局が「人を育てる」ことを大事している組織だと、こうした設備からも感じ取れる。立場を超えて対面する場、対話を生む場、自己表現のできる場を社内には設けることは、自然の流れだったのだろう。

年度初めには、全店全社員の個別面談を実施。目標設定を書き込む「目標管理/自己評価シート」を通して、目標を安倉氏ら教育部門担当者と共に共有することで、達成に向かってより具体的な支援ができるという仕組みだ。そのほか、入社1年目の社

員が入社から1年間の成長やつまずき、新たな目標などをまとめる「凝縮ポートフォリオ」や、新入社員に入社年数の近い社員を付ける「メンター・エルダー制度」を取り入れるなど、実にきめ細やかな支援体制が目を見届ける。

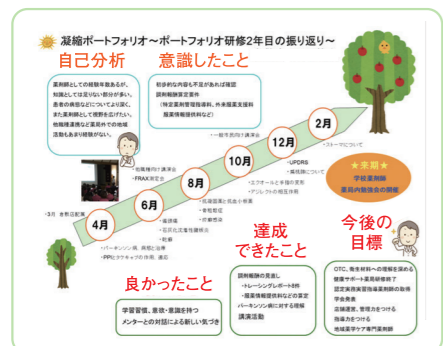
管理薬剤師として店舗勤務の経験をもつ安倉氏は話す。「店舗に所属していると、外来業務をやつて終わり、という人が多いと思うんです。目標を立てづらいうから評価もされにくい。だから、日常業務の向き合い方から変えていきたいと考えています。例えば特定の分野で研究をしたい、資格を取りたい、などの具体的な目標があれば楽しくなり、働き方が変わります」

後編では「地域医療の連携の取り組み」についてお話を伺います。

マスカット薬局の DI部門が担う5つの役割

- 1 医薬品情報などの収集・整理・保管
- 2 資料のデータベース化
- 3 医薬品などの情報提供
- 4 後発医薬品の社内推奨品の選定
- 5 勉強会の開催

〔成果例〕
「以前は後発品を各店舗が独自の判断で採用していたため、結局使わなくなった薬がデッド薬品になり、在庫金額がコントロールできていなかった。後発品の推奨品を選定理由とあわせて共有し、採用品が統一化された結果、在庫を店舗間で補完し合うなど、ロスを防ぐことにつながっている」



入社から1年間の自分を俯瞰して振り返る凝縮ポートフォリオ。新入社員や中途入社が入社式でプレゼンテーションする。自己の成長を客観的に振り返ることで、自ずと次の目標が見えてくるという。

「スタッフはもっとも信頼できるパートナーです。10年後も生き残れる薬局になるために、社員一人ひとりが自分の役割を明確にし、いきいきと働くことのできる組織にしていきたいと考えています」

2020年に全社員に向けて発行された「マスカット薬局2030年のビジョン」には、すでに実現したものから、これからチャレンジする未知の領域まで、多様でユニークな未来が描かれていた。



代表取締役 高橋 正志



マスカット薬局 本店
(国立病院前)
岡山県岡山市北区田益1290-1
https://muscat-pharmacy.jp/

